全国特別支援学校知的障害教育校PTA連合会

明日を拓く

令和2年
9月10日発行
86号

茨田新会長から木村前会長へ感謝状授与　全知Ｐ連事務局にて

新旧の絆で共に　新しい時代を乗り越える

全国特別支援学校知的障害教育校ＰＴＡ連合会 会長
東京都立青山特別支援学校ＰＴＡ会長
茨田　一矢

令和2年度全知Ｐ連会長を務めさせていただく茨田一矢と申します。我が子は中学一年の男児です。親としてはまだまだ経験が少ないですが、全国の子供たちのために精一杯務めさせていただきます。

まず、令和2年7月豪雨におきまして、お亡くなりになられました皆様にお悔やみ申し上げますとともに、被災された皆様ならびに御家族の皆様に、心より御見舞い申し上げます。また、新型コロナウイルス関連肺炎で亡くなられた方々にお悔やみを申し上げます。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、全知Ｐ連の全国研究協議大会九州大会（沖縄大会）の開催を中止いたしました。今回の「明日を拓く」は、沖縄大会開催に向けて御尽力くださっていた大会実行委員会の皆様の思いや、御提言いただく予定でした先生方の御寄稿文を掲載した「沖縄大会特集号」となっていますので、ぜひお読みいただきたく存じます。

6月29日に木村前会長への感謝状を贈呈させていただきました。全知Ｐ連のために多大なる貢献をされ、会長退陣後は顧問として全知Ｐ連を引き続き支えてくださいます。本当に心より感謝申し上げます。

今はコロナ禍で、これまでとは異なる新しい日常、生活様式が当たり前になり、それぞれのＰＴＡも、従来のような活動を継続することが難しくなりました。しかし、社会はＩＣＴ化が一気に加速しています。私の学校もＰＴＡの働き方改革を模索中です。

現在、文部科学省では「新しい時代の特別支援教育の在り方」について議論されています。ＰＴＡも、頼りになる先輩方や各学校の会長、関係者の皆さんと協力し、長年育んだ信頼と努力の積み重ねを大切にしながら、これからの「新しい時代のＰＴＡ活動」について、一緒に考え、取り組んでいきたいと思います。何卒、御理解と御協力くださいますようお願い申し上げます。

子供たちと共に歩む
～ＰＴＡで学んだこと～

全国特別支援学校知的障害教育校ＰＴＡ連合会
前会長（現顧問）　木村　加代子

我が子が高等部1年の時に全知P連会長に就任し、3年間務めさせていただきました。障害の種別や程度に関わらず、さらには障害のある無しにも関わらず、すべての子供たちが、それぞれの地域の中で生き生きと毎日を過ごしていくことを願い、ＰＴＡとしてできることは何かを考えてきた3年間でした。

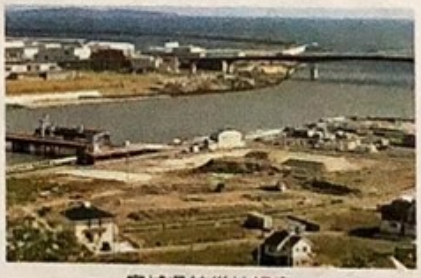
就任1年目の平成29年度に、全知P連創立50周年を迎えたことを思い出します。全知P連は、昭和42年に結成以来、ひとえに知的障害の子供たちを惜しみなく支えてきてくださったＰＴＡの諸先輩方や関連団体の皆様方のご尽力により、今日まで充実した活動が行われ、さまざまな歩みを遂げてまいりました。

全知P連の事業の一つである全国研究協議大会では、毎年全国各地のＰＴＡの代表の方々が、全知P連調査研究助成事業で取り組んだ活動の報告や、特色ある活動、地域との交流などさまざまな取組みを発表しています。こうして全国の会員の皆様に幅広く発信することで、他ＰＴＡの取組みを参考に積極的に取り入れたり、あるいは新たな試みに挑戦したりと、より活発なＰＴＡ活動へとつなげていただいております。

創立50周年　記念誌

しかし、今年度に関しましては、新型コロナウイルス感染症の影響から参加者の皆様の安全を第一に考え、4月に全国研究協議大会開催中止を決定いたしました。今年度は沖縄で開催をする予定でした。沖縄大会実行委員会や関係者の皆様は、全国の会員の皆様をお招きするにあたり、本当にたくさんのご準備をしてくださっていました。苦渋の決定でございました。子供たちの学びと豊かな生活を支え、応援する皆様の思いを、しっかり引き継いでいきたいと思っています。各学校のＰＴＡでも例年のような活発な活動をすることは難しくなっています。しかし、子供たちの成長や学びは止まることはありません。このような状況下だからこそ、できるかたちを工夫して情報を共有し、互いに助け合って、難局を乗り切っていけたらと思います。

東日本大震災があった年から、来年3月で10年となりますが、会長になって間もなくの頃、宮城県へ被災地現状視察にまいりましたことは、今でも記憶に深く刻まれています。語り部の方の当時の様子をお聞きしながら、復旧作業の様子を拝見できたことは、大変勉強になりました。全知P連では、防災教育や災害対応について、震災以来続けて、大会などの事業の中でテーマとして取り上げて、協議や研修を行なっています。世の中で生じる出来事を、自分事ととしてとらえ、地域の中のネットワークがいかに大切かを学んでまいりました。


宮城県被災地視察

新型コロナウイルス感染症との生活は、長期化することが懸念されています。さまざまな不便さや我慢も続き、新しい生活様式を取り入れた日常となっています。しかし、これまでの未曾有の経験も、新たな生活のスタイルも、きっと積み重ねた大きな力となっていくはずです。それらが、この先も子供たちが出会うかもしれない難局に、立ち向かう「糧」となっていくことを信じています。

昨年度末の、突然の休校や例年と異なる春を経て、今、それぞれに進級・進学をして学校生活をおくっています。3月に学校を卒業した皆さんも、新たなステージで元気に頑張っていることと思います。おわりからはじまりへ。人生の中で何度か訪れる「節目」。私自身も、今まで積み重ねてきた経験やつながりを大切にして、微力ながらこれからも障害のある方たちを応援してまいりたいと思っています。

結びに、いつも変わらぬご理解とご協力を賜りました会員の皆様をはじめ、関係各所の皆様、そして、そばで支えてくださいました事務局の皆様に心より感謝申し上げて、私からの最後のご挨拶といたします。3年間、本当にありがとうございました。

今後の全知P連に期待すること

全国特別支援学校知的障害教育校長会 会長
東京都立府中けやきの森学園 統括校長
（本会 相談役） 村山 孝

はじめに、この度の重い肺炎を引き起こす新型コロナウイルス感染症で、お亡くなりになられた方々に対して、謹んで哀悼の意を表します。また体調を崩された方々にお見舞い申し上げます。更に7月はじめに九州地区、中部地区などで起きた「令和2年7月豪雨」で被害に遭われました各地区の皆様には、心からお見舞い申し上げます。また、お亡くなりになられた方々に心からお悔やみ申し上げます。日本は、新型コロナウイルス感染症と7月の豪雨のため、平常の生活を行うことが困難な状況があります。一日も早く平穏な生活が戻ることを祈念いたします。

さて、全知P連は結成して53年目となり、ここまで防災対策、地域連携・地域貢献活動などの研究・研修を積極的に行い、大きな成果をあげてきました。昨年度の栃木大会においても、「地域との連携」「生涯学習」「防災活動」「特色あるPTA活動」などについて研究を深め、素晴らしい成果をあげることができました。今年度の沖縄大会では更に大きな成果を期待していたところでしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で大会は中止となりました。ここまで準備をしてきました大会実行委員の皆様、沖縄県特別支援学校の校長先生の皆様をはじめ先生方にとって今回の中止を受け入れることは、苦渋の思いだったのではないかと御推察いたします。沖縄県で多くの会員の皆様をお迎えし、研究を深める大変貴重な機会であっただけに、残念でたまりません。ここまで準備をされた沖縄大会実行委員の皆様、校長先生をはじめ先生方に対して敬意を表し、心から御礼申し上げます。

学校はしばらくの間、新型コロナウイルス対策を進めながら、教育活動を進めていくことになります。コロナ禍の中であっても学校は教育活動の充実を目指していきますが、全知P連においても、課題を明確化し、一体感をもって課題解決の取組みが進むことを願っております。

昨年11月23日(土)、24日(日)に開催された全国役員・都道府県代表者連絡協議会では「農福連携」について様々なことを学びました。農業は人が生きていくために欠かせない産業です。障害のある人たちが、人が生きるために大切な農業に関わることは社会参加や社会貢献の実現につながります。今後、農福連携を推進していくためには、研究を深め、持続可能な連携を構築することが重要です。今後の農福連携の充実を期待したいです。

令和の時代となり、今年度から全ての学校では新しい学習指導要領による教育が始まっています。今までとは異なる視点で新たな教育が始まり、期待も大きいです。一方で、昨今は新型コロナウイルスや様々な災害など予期しないことが起こる傾向があります。しかし、今後は予期できない困難な状況でも、迅速に対策を進め、持続可能な教育や社会を作り上げることが、令和の時代は必要ではないかと考えます。

全知P連では、ここまで研究してきた課題の他に、時代の流れにあった課題を取り上げ、全国の会員の皆様の参考となる研究活動などを行なってほしいと願っています。そして、このような困難な状況でも、全知P連は学校と緊密に連携し、53年間の研究実績や会員同士の絆を大切にしながら、子供たちの明るく豊かな人生のために進んでいただきたいと思っています。

新型コロナウイルス感染症の対応は、引き続き続くと思います。会員の皆様には、くれぐれも御自愛の上、全知P連の充実・発展が益々進むことを祈念し、御挨拶させていただきます。

令和2年度も何卒よろしくお願い申し上げます。

全知P連 組織紹介

総　会

監　事（会計監査）

全国役員会

事務局

顧　問　　参　与

全国役員【年2～3回開催】
出席者：全国役員
◆会　長
◆相談役（全知長会会長）
◆副会長（各ブロック長・全知長会事務局長）
◆理　事（保護者・校長・事務局長・事務局次長）
※顧問はオブザーバーとしての出席
（「会長・副会長会」は適宜開催）

全国役員・都道府県代表者連絡協議会
【年1回開催】
出席者：全国役員＆都道府県代表者
（都道府県知P連会長等）

会員校総数（分校・分教室含む）：818校【2020年5月25日現在】

副会長（各ブロック長）・理事（保護者・校長）

北海道ブロック	東北ブロック	関東甲信越ブロック	東京ブロック	東海北陸ブロック	近畿ブロック	中国四国ブロック	九州ブロック

各都道府県代表者（都道府県知P連会長等）

北海道 51校	青森 岩手 秋田 山形 宮城 福島 6県 96校	茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 神奈川 山梨 新潟 長野 9県 239校	東京 39校	静岡 愛知 岐阜 三重 富山 石川 福井 7県 103校	滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山 2府4県 107校	鳥取 島根 岡山 広島 山口 徳島 香川 愛媛 高知 9県 76校	福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島 沖縄 8県 107校

北海道（51校）
青森（11校）
秋田（12校）　岩手（19校）
山形（16校）　宮城（24校）
福島（14校）
新潟（29校）
富山（7校）
石川（10校）
福井（9校）
岐阜（18校）
長野（27校）
群馬（21校）　栃木（11校）
茨城（19校）
埼玉（31校）
千葉（40校）
東京（39校）
神奈川（54校）
山梨（7校）
静岡（25校）
愛知（22校）
三重（12校）
滋賀（13校）
京都（14校）
大阪（32校）　奈良（9校）
和歌山（8校）
兵庫（31校）
鳥取（6校）
岡山（11校）
香川（5校）
徳島（7校）

例年の全知P連「事業スケジュール」はこちらの通りです。
ただし、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で大きく変更となっています。

6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
●定時総会		●全国研究協議大会（全国大会）							●予算要望書作成		
					●全国役員・都道府県代表者連絡協議会					●会計監査	
●全国役員会					●全国役員会（予定）						●全国役員会
			●機関誌発行（予定）					●機関誌発行（予定）			●会長・副会長会

役員・都道府県代表者の任期（総会から総会まで）

●「調査研究助成事業」「防災関係」活動も行なっています。（HP参照）

北海道ブロック

＊北海道札幌高等養護学校

東北ブロック

青森県立森田養護学校
＊岩手県立花巻清風支援学校
宮城県立光明支援学校
秋田県立支援学校 天王みどり学園
山形県立酒田特別支援学校
福島県立大笹生支援学校

関東甲信越ブロック

茨城県立友部特別支援学校
栃木県立特別支援学校 宇都宮青葉高等学園
群馬県立高崎高等特別支援学校
埼玉県立秩父特別支援学校
千葉県立槇の実特別支援学校
＊神奈川県立瀬谷養護学校
山梨県立高等支援学校 桃花台学園
新潟市立西特別支援学校
長野県安曇養護学校

東京ブロック

＊東京都立水元特別支援学校

東海北陸ブロック

富山県立となみ総合支援学校
石川県立小松特別支援学校
＊福井県立嶺北特別支援学校
静岡県立袋井特別支援学校
愛知県立春日台特別支援学校
岐阜県立下呂特別支援学校
三重県立特別支援学校 玉城わかば学園

近畿ブロック

＊滋賀県立甲良養護学校
滋賀県立長浜養護学校
京都市立西総合支援学校
大阪府立なにわ高等支援学校
神戸市立青陽須磨支援学校
奈良県立西和養護学校
和歌山県立紀北支援学校

中国四国ブロック

鳥取県立白兎養護学校
島根県立松江養護学校
倉敷市立倉敷支援学校
＊広島市立広島特別支援学校
山口県立宇部総合支援学校
香川県立香川中部養護学校
愛媛県立新居浜特別支援学校
高知県立中村特別支援学校
徳島県立阿南支援学校

九州ブロック

福岡県立特別支援学校　北九州高等学園
佐賀大学教育学部附属特別支援学校
長崎県立佐世保特別支援学校
熊本県立松橋西支援学校
大分県立新生支援学校
宮崎県立みやざき中央支援学校
鹿児島県立桜丘養護学校
＊沖縄県立沖縄高等特別支援学校

令和２年度の都道府県代表校はこちらです。
各都道府県の窓口となる学校です。
（＊印はブロック長 所属校）
一年間、よろしくお願いいたします。

佐賀（6校）
福岡（24校）
長崎（15校）
大分（12校）
熊本（17校）
宮崎（9校）
鹿児島（14校）
沖縄（10校）
山口（11校）
島根（10校）
広島（14校）
愛媛（6校）
高知（6校）

【ホームページ】
全国特別支援教育推進連盟を通して
文部科学省・厚生労働省へ提出した
予算要望書等を掲載しています。
☞ http://www.zenchipren.jp/index.html

【機関誌】
・会報「明日を拓く」（会員全員配付）
・「全知Ｐ連だより」（各校２部配付）

行政トピックス

新しい時代の特別支援学校の在り方に関する有識者会議

近年の医療の進歩や障害の概念の変化・多様化など、特別支援教育をめぐる社会の変化にともない、特別支援教育を必要としている子供たちの数は年々増加しています。こうした状況を踏まえ、文部科学省では、特別支援教育の現状と課題を整理し、一人一人のニーズに対応した新しい時代の特別支援学校の在り方や、その充実のための方策等について検討を行なうための有識者会議を設置しました。令和元年９月に設置されて以降これまでに数々の議論が重ねられています。
～資料より一部抜粋～

歴代の全知Ｐ連会長が、文部科学省に長年にわたり要望してきたことが叶っています。一歩一歩、前進しています！

特別支援学校の教室不足

令和元年５月１日現在、全国の特別支援学校で 3,162 教室が不足しており、教室不足を解消するため、令和２年度から６年度までを「集中取組計画」としています。令和２年度は、当初予算に加え、第一次補正予算においても教室不足解消のための所要額を計上するとともに、特別支援学校の用に供する既存施設の改修事業について国庫補助の算定割合を引き上げており、各学校設置者には、「集中取組期間」において、特別支援学校の新設や増築を行なったり、他の学校の空き校舎や空き教室を特別支援学校の教室として確保したりすることが求められています。

特別支援学校設置基準の策定

特別支援学校の教育環境を改善するため、国は特別支援学校に備えるべき施設等を定めた設置基準を策定することや、さらには地域の実態やさまざまな障害種等に対応できる基準を検討することなどが議論されています。

※開催のお知らせや会議資料などは、当省のホームページに随時掲載されています。

リーフレット「わかりやすい版　だれでもいつでも学べる社会へ
～障害のある・なしに関係なく共に学べる生涯学習について～」
（障害者の生涯学習啓発資料）

学校を卒業した後も、身近で学ぶことのできる機会はたくさんあります。しかし、障害のある人が学べる場については十分になく、配慮されている場が少ないのが現状です。

平成 31 年３月にまとめられた報告書「障害者の生涯学習の推進方策について―誰もが，障害の有無にかかわらず共に学び，生きる共生社会を目指して―（報告）」では、特別支援学校に期待される取組みとして、在学中から生徒たちに生涯学習に興味を持ってもらえるような指導を行なっていくことや、個別の教育支援計画の作成等を通じて、特別支援学校、地域の福祉施設や企業などとの連携を進め、卒業後も安心して学び続けられるようにしていくことなどが示されています。

この度、障害者学習支援推進室において、学校を卒業してこれから社会へ出ていく生徒の皆さんを対象に「わかりやすい版」としてリーフレットが作成されました。ぜひ、御家庭や授業等で、生涯学習について考える機会として御活用ください。

☞ https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/mext_00601.html

最新トピックス

子供の学び応援サイト（新型コロナウイルス感染症関連）

文部科学省や独立行政法人国立特別支援教育総合研究所のホームページでは、家庭で楽しく取り組むことができる学習や運動などのサイトや、全国の特別支援学校の取組みの一部が掲載されており、さまざまな学習や生活の場で参考になるような情報が紹介されています。障害の状態や特性に応じて、取り組みやすい学習内容を選択し、各御家庭や学校の学習支援に御活用いただくことができます。

○文部科学省
「臨時休業期間における学習支援コンテンツポータルサイト」
☞ https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/index_00001.htm

○独立行政法人国立特別支援教育総合研究所
「障害のある子どもたちへの指導に関わる参考情報」
☞ http://inclusive.nise.go.jp/?page_id=117

新型コロナ流行でのおうちの過ごし方
―知的障害と自閉症のあるお子さんのいる御家庭へ―

信州大学教育学部特別支援教育グループ下山真衣准教授らが知的障害と自閉症のあるお子さんのいる御家庭向けに、休園、休校中のお子さんの御家庭での変化や過ごし方についての案内を作成されたものが公開されています。障害のある子どもたちが理解しながら安心する家での過ごし方について、イラストを交えてわかりやすくまとめられています。ぜひ御活用ください。
☞ https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/education/news/news/post-30.php

いま伝えたいこと

私たちはいま、新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大防止に努めた「新しい生活様式」を日常生活の中で取り入れていく必要がある時代の中にいます。新型コロナウイルスのワクチンや治療薬が開発され、安全で効果的に使用できるようになる迄、感染対策は予断を許さない状況が続きます。

一方、地球温暖化の影響により、記録的な豪雨や巨大台風などの気象災害が相次ぎ、各地で川の氾濫や土砂災害など甚大な被害が発生しています。また、首都直下地震や南海トラフ巨大地震は、いつ起きても不思議はないとされています。水害や地震などの自然災害に新型コロナウイルスの感染リスクが加われば、複合災害となり、大きな脅威となります。

各地域の自治体では、ホームページなどで「新型コロナウイルス感染症と自然災害の複合災害に備えた対策」をお知らせしていますので、必ず確認しておいてください。そして、「災害が起きたら避難所へ避難する」という選択だけではなく、自宅周辺のリスクや家族の状態を考え「難を避けられる所」を複数確認しておきましょう。自宅が安全であれば、家の中のより安全な場所へ移動する「在宅避難」もありです。決して、“**他人ごととせず、我がこととして**”受け止め、いま備えておきましょう。

第39回 全国研究協議大会（九州大会）沖縄大会

沖縄大会は中止になりましたが、この誌面を通して、私たちの熱い思いをお届けいたします！

特集号

実行委員長を経験して

沖縄大会前実行委員長　石原　昌明

所属校　沖縄県立美咲特別支援学校はなさき分校

２０２０年に開催される、第39回全国研究協議大会九州大会（沖縄大会）の開催に向けて、実行委員会を立ち上げる事になり、あれよあれよと言う間に実行委員長に任命されました。実行委員会は３年程前に立ち上げたのですが、つい最近のように感じると共に懐かしくもあります。

当時は、大会に向けてやらないといけない事もぼんやりとしていて、どこか他人事のような感覚もありました。ですが、実行委員会を開催する毎に決めないといけないことや分からないことなど、様々な事項が出てきて、その都度みんなで知恵を出し合い一歩一歩進んでまいりました。

それも今となっては良い思い出になったと同時にとても良い経験になりました。

例年ですと８月に開催される全国研究協議大会ですが、沖縄は10月辺りまで台風が毎週のように通過する事で大会が中止になる確率が高い事を懸念し、多少無理を言って11月に開催させてもらうことになりましたが、まさか新型コロナと言う感染症の流行で中止になるとは予想外の展開でした。

収束にはまだ時間が掛かりそうなので、下手なことは言えませんが、これはこれで個人的には良い経験になったと感じています。

さて、当時の事を振り返ると、実行委員長を引き受けたものの、自分にそんな大役が務まるのか不安な日々を過ごしていました。それを払拭して下さったのがやはり一緒に活動している実行委員会のメンバーや携わって下さっている保護者や先生方の的確なアドバイスや迅速な行動でした。

特に岡越事務局長は頭の回転が異常なほど早く、めちゃくちゃ頼りになりました。遊び心も満載で楽しく活動を行うことができ、本当にこの先生で良かったと感じました。

そしてもう一人、心底頼りにしていた方が実行委員長を引き継いだ仲宗根実行委員長です。実行委員長を引き継ぐ前から、次から次へと色々なアイデアを出しては実行しての繰り返しで、実行委員長以上の働きで本当に頼りになりました。また各校のＰＴＡ会長や副会長などからも電話やＬＩＮＥなどで直接アドバイスや提案があり、本当に心強く感じました。

その事からも今回の活動を通して人と人とのつながりの大切さを実感する事ができ、私の人生にとって本当に貴重な経験になりました。

この経験を今後、どのようにして子供達の未来のために活かして行くかが本当の勝負ですし、私達大人の役目だと感じています。そのためには本大会のような大会に参加するなどして、もっと知識を深めていく事が重要なのだと思います。

最後になりますが、沖縄大会のためにご尽力頂いた全知Ｐ連会長の木村様をはじめ全ての関係者の皆様に心から感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

全知Ｐ連(沖縄大会)中止を受けて

沖縄大会実行委員長　仲宗根 美佐代

所属校　沖縄県立美咲特別支援学校

全知Ｐ連の皆様、こんにちは。はじめに今回の令和２年７月豪雨災害により被災された多くの皆様へ心よりお見舞い申し上げます。私は２０２０年11月７日(土)８日(日)に開催を予定していた第39回全国研究協議大会九州大会（沖縄大会）の実行委員長石原会長の後任になりました、美咲特別支援学校ＰＴＡ仲宗根と申します。従来でしたら大会は８月開催ですが、８月の沖縄は観光立県、また観光客の増大と台風シーズンに入ります。そのため開催時期を私が県知Ｐ連会長の年に全知Ｐ連会長・事務局へご相談させて頂き、快く変更していただきました。さらに世界中に蔓延している新型コロナウイルス感染症拡大のため、誠に残念ですが、全国からお越し頂く皆様の安全を第一に考えて中止となりました。これまで沖縄県の役員が準備してきたこと等色々な想いを全知Ｐ連会長・事務局の計らいで、本会報誌に載せて頂けることになり大変感謝致しております。

沖知Ｐ連は現在本島７校、宮古・八重山の離島２校の計９校で運営しており、３年前の平成29年から沖縄大会に向けて、少しずつ話し合いを積み重ねてきました。２年前には、本格的に実行委員会を立ち上げ、沖知Ｐ連理事会終了後には、その都度実行委員会を開催し、各校の進捗状況をお互いに把握し合うといった形で進めて参りました。「少し笑い話」ではありますが、沖縄県内には、大規模人数が収容できるホテルが限られており、全国からの皆様をお迎えするにあたり交通の便等も考慮して、空港近くのパシフィックホテルに予約を入れました。ところが分科会会場が足りなく、本校の沖縄大会事務局長の岡越教頭先生が隣接するロワジールホテルに交渉に行った所、結婚式の予約が入っていたため、借用することが難しいとのことでしたが（きっと拝み倒したのだと思います…）結婚式をキャンセルして頂き大会のためにホテルを提供してくれることになりました。ですが、今回の新型コロナウイルス感染拡大により、両ホテル共キャンセルしました。もし結婚式を挙げる方がそのままだったとしたら多額のキャンセル料を支払うことになったと思います。今では全てに意味があったと思います。

大会に向けて、全国から参加して頂く皆様へ沖縄の素晴らしい所を見て頂き、沖縄から発信できる情報を少しでも多くお伝えできればと思っておりました。毎年行われている大会は、どの県も素晴らしく、毎回たくさん有益な情報を持ち帰ることができています。そして何よりも全国の皆様との繋がりを持てることは、これからも私たちの宝物だと思っております。今回、分科会での発表を快く引き受けて頂いた各校の皆様、ありがとうございました。またいろいろな面でご配慮して頂きました全知Ｐ連会長・事務局の皆様方へ心より感謝申し上げます。第39回全国研究協議大会九州大会（沖縄大会）へ懸ける沖知Ｐ連全会員の気持ちがひとつになり、さらに絆を深めることができました。

全国の皆様がコロナに負けず、またどこかでお逢いできる日を心から楽しみにしております。

沖縄大会の開催に向けて

沖縄大会副実行委員長　伊禮 美和子

所属校　沖縄県立島尻特別支援学校

昨年より、第39回全国研究協議大会九州大会（沖縄大会）副実行委員長を務めることになりました、沖縄県立島尻特別支援学校ＰＴＡ会長の伊禮と申します。ＰＴＡ役員は私の子供が小学部の頃からですので、６年目になりました。その間、全知Ｐ連の岐阜大会、秋田大会、東京大会、京都大会、栃木大会に参加させていただきました。そして、今年度は満を持しての沖縄大会が開催される予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、残念ながら中止となりました。

これまで幸運にも単位ＰＴＡの推薦と子供の状態と家族の協力で、何度も全国大会に参加させていただきました。「多様性を認め合い共に育む心のネットワーク～すべては子供たちの笑顔のために～」の大会テーマのもと、全国のＰＴＡ会員が一堂に会すこの研究協議大会は、情報はもちろん全国のＰＴＡの皆さんから元気をもらえる場、また、絆をつくれる場でもあり、参加して多くの刺激と学びがありました。

沖縄大会に向けて、沖縄県のＰＴＡの皆さんにとっても、地元開催の期待、大会参加の気運は徐々に高まってきていました。私達実行委員も、県外はもちろん、県内の多くの皆さんにも参加していただくべく、準備を進めて参りました。栃木大会で引き継いだ大会旗を、次は沖縄で大きく掲げようとの思いでした。

沖縄大会は中止になりましたが、記録を残し、次の方々につないでいきたいと思います。これからの全国研究協議大会も新型コロナに負けないパワーアップした大会になることをご期待申し上げます。

沖縄大会の開催に向けてご理解・ご協力をいただきました九州地区のＰＴＡ役員の皆様、全知Ｐ連会長・事務局はじめ関係者の皆様には、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

全国の皆さ～ん、

またいつか 沖縄にめんそ～れ～♪

沖知Ｐ連メンバー【令和元年度第38回全国研究協議大会 関東甲信越大会（栃木大会）にて】

沖縄大会への思い

沖縄大会副実行委員長　玉寄　進

所属校　沖縄県立西崎特別支援学校

4月14日の沖縄大会の開催中止の知らせをホームページにて確認した時、沖縄県内の各単位PTA役員、OB、OGの皆様、先生方に動揺が走り、今まで長い期間、準備や議論を重ねてきたのが一気に崩れ、悲しみ、涙に明け暮れました。しかしながら、安心安全を第一に考えれば当然のこと、全知P連会長・事務局の苦渋の決断であったかと思いますが、次につながる英断と理解しています。

毎年、全国研究協議大会の時期になると、ウキウキした気分になります。大会を介して、全国で子ども達の笑顔のために日々頑張っている素敵な参加者の皆様とお会いできるからです。交流を通して、絆が生まれ、PTA活動を行っていく上で力の源になります。

私は、誰もができるPTAを目指しています。とにかくいつも笑っています。難しいことを実行するにも、人がやること、楽しい雰囲気づくりを意識し実行につなげています。

単位PTAとしては会長として、3年目、役員、評議員会、時間があれば、学校に脚を運び、先生方と話をする、先生と保護者としての立場、人と人としての立場を考えながら、時には…というか、ほぼ、冗談を言いながら、関係を構築しています。保護者としては、2人の子が西崎特別支援学校に通うお父さんであります。子ども達はスクールバスで登校していますが、バス停では保護者の皆様と会話したり、スクールバスに間に合わなければ、子ども達に学校へ行く口実（笑）をつくってくれてありがとうって話をしながら、学校へ送ったり、同じように保護者の皆様との交流、子ども達の笑顔に接することができ、私自身子ども達と同じように学びの場でもあります。

楽しく過ごしている日々を、もっともっと詳しく沖縄大会で発信したかった…。昨年の栃木大会の懇親会で素敵なインパクトのあるキャラクターで登場した「いちごちゃん」と同じくらいインパクトのあるキャラクターを沖縄大会で発信したかったという思いに、涙があふれます。

冒頭でもふれましたが、中止の決断は沖縄大会の参加予定の皆様の安心安全を守られたという点において英断でした。

今年度は、我慢の1年となります。「すべては子ども達の笑顔のために」という思いを持ち続けていけば、知恵が出てくると思います。未来につながっていくと思います。安心安全を第一に念頭におきながら、共に頑張っていきましょう。

令和元年度全知P連栃木大会にて

総合補償制度の年度実績（御報告）

知的障害教育総合補償制度の加入者を対象とした過去1年間(平成31年4月～令和2年3月)に保険金が支払われた事故につき全体の傾向と事例をご案内いたします。

今回の集計結果では、3116件の事故に対して補償制度から支払いされています。

事故件数は減っておりますが1件あたりのお支払の保険金については増加傾向にあり、全体としましてはお支払の金額が増加している点が特徴でございます。

生徒本人の傷害事故が917件、第三者への賠償事故が2198件となっており、前年度に比べ傷害事故は103件減少、賠償事故が40件増加しております。

自転車事故は、本人の傷害事故36件、賠償事故11件となっております。

死亡事故や後遺障害の認定による重症事故は、昨年以上の17件発生しております。

第三者への賠償事故については例年の通り「メガネ」「ガラス」を破損、「自動車」への損害、「パソコン」「携帯電話」等IT機器の事故が多くを占めており、5万円未満の賠償事故が1670件と多くを占めております。

一方で保険金が10万円を超える事例は202件発生と昨年より増加傾向が続いており、さらに100万円を超える高額事例も4件発生しております。

また新たな補償である育英費用について1件のお支払いが発生していることもあり高額化が進んでいます。

傷害事故例

①歩行中に転倒し、入院を要した。（補償金　約8万円）

②階段から転落し、通院を要した。（補償金　約3万円）

賠償事故例

①自転車運転中、他人に接触して怪我をさせてしまった。（補償金　約2万円）

②壁を破損させてしまった。（補償金　約5万円）

傷害事故例（20万円以上）

①歩行中に転倒して負傷。（補償金　約37万円）

②交通事故で負傷。（補償金　約35万円）

賠償事故例（20万円以上）

①送迎車を破損させてしまった。（補償金　約45万円）

②エアコンを破損させてしまった。（補償金　約26万円）

育英費用事故例

①扶養者が階段より転落してしまった。（補償金　500万円）

以上の通りでございます。

今年の総括としましては、全体的な事故の発生件数は昨年より減少しておりますが、支払総額は約1億6522万円と上がっており、1件1件の事故が高額化しております。いつ何時自分が加害者または被害者になる可能性は十分にございます。

知的障害教育校総合補償制度は、生徒様のお体の補償はもとより第三者への賠償事故という観点からもご加入をお奨めいたします。

（文責　AIG損害保険株式会社　大村　誠）

関連団体の御紹介

全知P連では日頃から、さまざまな関連団体より御指導、御支援を頂戴しております。引き続き連携してまいりますので、どうぞ、よろしくお願いいたします。

- 文部科学省
  http://www.mext.go.jp/
- 厚生労働省
  https://www.mhlw.go.jp/
- 全国特別支援教育推進連盟
  http://suishinrenmei.c.ooco.jp/
- 全国特別支援学校長会
  http://www.zentoku.jp/
- 独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所
  http://www.nise.go.jp/
- 全日本特別支援教育研究連盟
  https://manavia.net/community/16
- 一般社団法人 全国手をつなぐ育成会連合会
  http://zen-iku.jp/
- 一般社団法人 日本発達障害ネットワーク
  https://jddnet.jp/

編集後記

例年通りの活動が難しい令和2年度ですが、今号（86号）から少しでも本会の活動がお伝えできれば、との思いを込めてみました。これからの時代に生きてゆく子供たちが笑顔でいられるように、共に「今」を頑張りましょう。御感想など頂けましたら幸いです。

【編集・発行】　全国特別支援学校知的障害教育校PTA連合会事務局
〒105-0012　東京都港区芝大門1-5-3　ヤマシタ芝大門ビル5階
TEL　03 - 3433 - 7651　FAX　03 - 3433 - 7652
E-mail：info@zenchipren.jp
http://www.zenchipren.jp/
【印　刷】　株式会社　創新社

【大会一日目の「提言」をいただく予定でした】

繋がる防災・減災

琉球大学工学部社会基盤デザインコース
准教授　神谷　大介

私は大学生の時に兵庫県で阪神淡路大震災の被災者となったことがきっかけで、防災研究、特に避難に関する研究を始めました。学校安全・防災との関わりは、東日本大震災後、沖縄県教育庁が学校危機管理の見直し等を行う際に協力させて頂いたことです。その後、県教育庁が隣接する特別支援学校と高校を研究指定校とした取り組みを開始する際、声をかけて頂きました。

特別支援学校の先生から、子どもの個性・特性が違うので対応方法も様々であること、医療的ケア児の存在など、多くの悩みを伺い、協力の打診を受けました。最初に私が申し上げたのは、「特別支援学校の普段の状況を見せてください。」ということです。私が特別支援学校に入ったのは、この日が最初です。小学校から高校でさえ、児童・生徒という立場でしか見たことがありませんでした。つまり、学校という社会において当たり前の空間であっても、教育の場としての学校を知っている人は極めて少ないです。

また、学校安全・防災と関わり始めて、学校保健安全法を勉強しました。学校健康教育は学校保健・学校給食・学校安全で構成されることを知りました。学校保健は養護教諭、学校給食は管理栄養士や栄養教諭というように、特別な教育を受けた先生が対応されます。しかし、学校安全は年度ごとに担当者が交代します。つまり、防災に関する専門的な教育を受けた方は学校現場にいません。さらに、特別支援学校と高校との取り組みにおいて気付かされたことは、教員はそれぞれの中で異動しており、両校種での共通認識が無いことでした。

これらの気づきを踏まえ、両研究指定校での取り組みにおいて協力・実践させて頂いたことは、合同避難訓練の様子を俯瞰的にビデオ撮影すること、その映像を用いた反省会を合同で行うことです。訓練の中に入ると詳細は見えるのですが、課題を認識しづらい、つまり、木を見て森を見ずという状況になってしまいます。また、合同反省会に私が参加することにより、各学校内での暗黙知が通用しないため、暗黙知は言葉（形式知）に変換されます。形式知にすることにより、知の連結化による新たな知（対策案）を生み出すことができます。このことは、知識経営の分野で用いられるモデルを援用することにより可能になります。

合同避難訓練を行うことにより、これまで消極的な参加者であった高校生の態度が変わりました。訓練の前に、福祉系列の生徒には、特別支援学校の生徒と交流してもらいました。これにより、高校生による軽度な障がい児・者の避難支援が可能になります。そして、教員は教員でしか対応できない児童・生徒に集中することができます。さらに、訓練後のアンケートで高校生が「私が怪我をしたら助けに行けない。」と書いていました。これは高校生が助けられる側から助ける側へと変化し、主体的に訓練に参加できるようになったことを表しています。

全国の多くの大学に防災センターが設置されています。全ての都道府県に防災士会が存在します。防災ボランティア団体も多数存在します。外部の力をうまく内部に組み込んで下さい。多くの場合、手間はかかりますが、費用はかかりません。そして、多くの人に特別支援学校の現状・課題を知ってもらい、そこへ通う子供たちのことを認識してもらって下さい。そうしないと、外部からも支援が行いにくいです。各学校でのこのような取り組みが、インクルーシブ防災へと繋がると思います。

特別支援学校に通う子ども達の笑顔を繋ぐことができる社会が、真の意味で、安全・安心な社会です。そのような社会の姿を望む人たちは多数います。学校がより地域社会と繋がり、知の連結と創造、そして協働により、笑顔を未来へ繋ぐことが出来る社会を築いていきましょう。

【大会二日目の「講演会」の講師をしていただく予定でした】

人づくりの種をまく
～感動体験の舞台活動を通して～

沖縄文化芸術振興アドバイザー　平田　大一

◆舞台が元気を運んで来る

僕の職業は、「南島詩人」。詩をただ書くのではなく、音楽や踊り、詠むでも何でもあり。その瞬間瞬間を切り取って表現するのが僕のパフォーマンスだ。僕はパフォーマーであると同時に、演出家・指導者などの顔を持つ。そんな僕の代表的な作品が、地域の中学生や高校生たちを中心とした演劇活動「肝高の阿麻和利（きむたかのあまわり）」だ。初演の2000年から20年間で上演回数334回、観客動員数19万2945人を記録、不登校気味の子ども達や問題を抱えた子ども達が、舞台活動を通してみるみる内に成長し笑顔になっていく…そんなことから〝奇跡の舞台〟と呼ばれた。今も昔もそしてこれからも、僕の想いはただ一つ「舞台をつくるのではなく、人をつくる」この一言に尽きる。

◆舞台「現代版組踊 肝高の阿麻和利」

この作品は、沖縄県うるま市にある世界遺産「勝連城跡」最後の領主阿麻和利王の激動の生涯を描いた物語であるが、実は僕が演出をつとめる前までは、1719年に作られた古典様式劇「組踊（くみおどり）」の影響もあって、首里王府に弓を引いた逆賊として知られていた。これを勝連の抱える教育問題と結びつけ、当時（1999年）の勝連町教育委員会教育長だった故・上江洲安吉先生（享年93歳）が、「逆賊・阿麻和利を、英雄・阿麻和利に仕立ててほしい」と想起し、比較的若くて史実に柔軟な演出家であった僕に白羽の矢が立ったのである。

◆感動の初演大成功

当初、上江洲先生のこの提案に賛成する者は少なかった。正直、この舞台が上演後、まさかここまで大きな反響を呼ぶとは、当時誰も予想していなかった。沖縄の高尚な伝統芸能「組踊」を、子ども達主体で成功させられるとは思えなかったからだ。この時点ですでに想像に難くないが、事態は停滞の様相を見せていた。それでも僕は前向きな姿勢を崩さなかった。自ら送迎バスを運転し参加者を増やし、ゲームや遊びをふんだんに取り入れたユニークな稽古内容で子ども達のやる気を引き起こし、本番当日までの3か月後には出演者150名（スタート時は7名！）、観劇に来られたお客様は2日間で4200名余りという大盛況ぶり、勝連城跡特設ステージに駆けつけた大勢の大人たちの声援と拍手を受けて舞台上の子ども達も大号泣、感激の面持ちの上江洲先生は「平田さん！これが本当の教育ですよ！道徳とは感動体験の異名ですね！」と豪語された。

◆人づくりの種をまく

初演から20年、世代交代を繰り返しながら、昨年（2019年）は夢の東京・国立劇場での特別公演を実現、子ども出演者と親サポーターズが協働で手掛ける「現代版組踊」という人づくり舞台運動は、今や全国16カ所に拡大し大きな展開を見せている。地域の伝説を紐解き、足元にある物語を通じて子ども達が地元の歴史を「追体験」していく、そして生まれたマチを誇りに思う次世代を育む…この手法は「きむたかメソッド」と呼ばれ全国の教育関係者からの問い合わせも多い。最近は、障がいを持った子ども達の参加も増えてきた。遠慮がちな親御さんには舞台稽古の見学と参加をすすめ、我が子の可能性のリミットをお互いがつくらないよう声掛けをさせて頂きながら受け入れ体制の環境整備を推進している。

目指しているのは「人づくりの『種』をまく」活動。「種」とは「感動体験という種」である。その種は人生の中の「出会い」という巡りくる季節に芽吹き、やがてそれぞれの場所で、色取り取りの美しい花を咲かせる。障がいの有無に関係なく「花咲き芽吹く感動体験の種まき」の舞台づくりに、これからも全力で取り組みたいと心に期する。

舞台「肝高の阿麻和利」(中高生たち)

事務局長を通して

沖縄大会事務局長
(教 頭)
岡越 猛
所属校 沖縄県立美咲特別支援学校

令和2年度は、文部科学省による全国の学校が臨時休業と、誰も経験したことのない状況でスタートしました。また、6月からの長雨により、水害で被災された地域もたくさんあります。喪心よりお見舞い申し上げます。

このような、社会や学校を取り巻く状況の中、令和2年度第39回全国研究協議大会九州大会(沖縄大会)の開催に向けて、準備を進めてまいりましたが、先に挙げたように、新型コロナウィルス感染症による、緊急事態宣言にともなう、通勤自粛等により連絡調整が困難な状況になり、周知の通り、4月14日に開催中止が決定されております。

この間、本県として実行委員長を中心に約3年間、開催に向けた準備を進めてまいりました。組織体制づくりや会場の調整等について、役員会や拡大実行委員会を多いときで月に2・3回実施してきました。各校のPTA会長・副会長始め関係者には、夜遅くまでの会合等もありご負担をおかけしましたが、皆様のいつも笑顔で、前向きな姿勢はとても力強く事務局を支えていただきました。やっぱり、沖縄はいい。沖縄の人は、あったかい。感謝しかありません。

全知P連会長・事務局より、本年度の中止決定の一報が本県に入ったときの、本校で尽力してくれた、事務局3名(平良、香澄、志織)の教諭は何とも言えない表情をしておりました。予算・組織運営・会場調整等々、誰一人欠けてもここまでの、準備は出来なかったと思います。大会が中止になっても、沖縄大会を形に残したい、その熱い思いが、今回の、特別号となります。

まだまだ、困難な状況は続くかも知れません、しかし、どんな状況でも「すべては子どもたちの笑顔のために」私たち、大人が前を向いて進んで行かなければ。全国の皆さん、ともに頑張りましょう。

最後に、木村会長はじめ、全知P連事務局、栃木大会の皆様ありがとうございました。

共に幸せに暮らす社会作り

沖縄大会事務局校 校長　**城間　政次**

所属校　沖縄県立美咲特別支援学校

第39回全国研究協議大会九州大会（沖縄大会）事務局校校長の城間です。どうぞ、よろしくお願いします。沖縄は、例年にもまして暑く、しかし、風は、心地よく吹いています。爽やかな海風の吹く沖縄で皆さんとの出逢いをとても楽しみにしていましたが、今年度11月に、沖縄で開催される予定だった、全国研究協議大会が、新型コロナウィルス感染症の影響で中止となりました。数年前から沖縄では、その準備にあたり、沖縄らしいおもてなしをと各PTAが努力していたところなのでとても残念です。各学校の個性的な取り組みや実践研究等沖縄の地で学び、特別支援教育の先端を行く講話等で新たな時代の幕開けをしっかり感じようとした矢先でしたので残念ではありますが、また、何かの形で全知P連の取り組みが残せたらなと思います。

学習指導要領も改訂となりました。その総則から一部引用します。「21世紀は、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」の時代であると言われている。このような知識基盤社会化やグローバル化は、アイディアなど知識そのものや人材をめぐる国際競争を加速させる一方で、異なる文化や文明との共存や国際協力の必要性を増大させている。このような状況において、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」をはぐくむことがますます重要になっている。」まさしくその通りだと思います。その実現のため、全知P連は、今後も一致団結頑張っていければと思います。

平成から令和となり、子ども達を取り巻く社会も高度情報化の発展、少子高齢化の進展、等大きく変化していきます。この激動の時代を保護者、教職員、子ども達、地域の人達と連携し、たくましく生き抜く力を学校教育を通して実現できればと思います。全国の全知P連関係者の皆様、自然災害も続き、新型感染症も流行の兆しを見る中、ぜひ力を合わせ、障害のある人もない人も共に幸せに暮らす社会作りに取り組んでいきましょう。